

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470300456		
法人名	社会福祉法人 伊勢湾福祉会		
事業所名	グループホーム マリンの家		
所在地	鈴鹿市中旭が丘一丁目11-8		
自己評価作成日	評価結果市町提出日	令和4年10月20日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470300456-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	令和 4 年 9 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長引く新型コロナウイルス感染症に対しての感染対策を強化して、家族や地域の方との交流、また、行事の相次ぐ中止に入居者のストレスも計り知れないものと思われる。一人一人の意思を尊重し、会話を重視して傾聴・共感する態度で接し、安心、安全な環境で過ごせるように努めている。面会規制や外出規制、そんな中での施設生活をいかに充実して過ごせるか？職員達は個々にアイデアを出し合い、イベント企画を話し合い実行している。室内の壁飾り等もユニークな物を毎月飾り、明るい雰囲気作りに努めている。また、職員同士のコミュニケーションも大切にし、支援方法に問題点があればその都度相談し、実施している。ここ数年離職者もなくチームで入居者への支援をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

特別養護老人施設、短期入所施設、デイサービス、訪問介護、居宅介護支援事業所を開設している、地域における福祉の拠点となっているグループホームである。設立22年がたち職員は、利用者を人生の先輩と思い本人の意向に添う様に、上から目線にならず意志を尊重し否定せず受け入れている。また、本人が出来る事を見出し、日々、穏やかに外出も少ないなかでも楽しく明るく過ごせるように、いろいろな企画を取り入れ笑顔がいつも見える楽しさを、作りだす支援を心掛けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新型コロナウイルス感染症拡大で理念に基づいた家族や地域の方との交流ができず実践できていないのが現実である。入居者に対する支援に行き詰まることがあれば、理念を共有して職員間で話し合うようにしている。	玄関・タイムカードの上に、常に職員の目が届く所に掲示し意識を高めるようにしている。また、毎月の職員会議で理念に添った行動支援が出来ているかを意見交換している。利用者に寄り添って会話を交わし、一人ひとりの思いを受け入れ、何事も拒否しないように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。広報も毎回届けてもらっている。地域の行事になるべく参加していたが、長引く新型コロナ感染拡大の為地域の行事も中止になって交流も途絶えている。夏休みのラジオ体操のみ当ホーム駐車場で実施し、子供たちの笑顔に癒されている。	自治会の会合に多目的ホールを、また、子供会・一部住民参加のラジオ体操に駐車場を提供利用している。ボランティアが草取り・窓ふき、折り紙で作った作品、利用者の衣類の補修等に来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所2階の多目的室を、地域の集会や介護予防事業に使用するために開放していたが、現在はコロナ禍によりすべて中止になっている。施設見学も受け入れられず、介護に関する相談などは電話のみで受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催していたが、新型コロナウイルス感染症が2年前に法人特養でクラスターが発生した。今年に入り当事業所でも入居者・職員が発症。感染予防のためここ2年間はほとんど開催できず、毎回活動報告書を委員の皆様へ送っている現状である。	コロナ禍で会議は昨年1回限りで、現在は中止している。参加者に中止案内書と活動状況報告書を作成し、質問・意見書を添えて送付、意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	鈴鹿亀山地区広域連合の職員にも運営推進会議の出席を依頼していたが、コロナ禍により欠席が続いている。意見や情報交換も少なくなり、窓口へ直接行くこともなるべく控えて、メールでのやり取りが増えている。いきいきボランティアも室外清掃及び作品の持ち込みのみとなっている。	事故報告書をメールで送付したり、ホームページで確認したり、介護保険の書類を届けたりして情報交換をしている。また、市からは社協を通じてボランティアの派遣を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で開催している身体拘束廃止委員会に出席している。県や市で行われる身体拘束に関する研修にも参加し、意識を高め職員にも伝達研修を行って正しく理解をしているが、現状では出入口の施錠はやむをえないこともある。	毎月の法人で行なう身体拘束廃止委員会に参加し、職員は年2回、拘束に関する研修に参加している。言葉の拘束についても事例・マニュアルを使用し勉強会を行って、虐待を含めて拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員会にて虐待防止についても勉強会を行っている。入居者の尊厳を守る気持ちをもって対応できるように職員間で話し合っている。業務中に不適切な態度や言動が見られた場合は振り返る時間をもうけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現実、権利擁護に直接関与することがなく、職員も意識が薄いように思う。今後は様々な事例を元に勉強会の機会を作り学んでいこうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入居者本人、家族への利用契約書及び重要事項説明書等の項目について説明をし、ご理解、納得を得て同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為、家族会が開催できず意見や要望をうかがえていない。面会時に直接お話を伺うも運営に反映できる内容は今のところない。利用者には今年の事業計画の中でやりたい事等を聞き、なるべく実践出来るように努力している。	面会・預り金の持参・おむつの持ち込みに家族が来訪した時に把握に努めている。コロナ禍の為、ゆっくりと家族とお話が出来ないのが現状であり、意見等は中々把握が難しいところがある。	家族からは事業所に対しての意見・要望は出しにくいものであるという前提に立ち、事業所側からのアプローチや家族会のあり方を、より以上に工夫し検討される事を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人幹部職員や管理者が職員とのコミュニケーションを図ることができるように「マリンホームを良くする会」を開催して、毎回職員の意見や提案を聞く会を設けている。	3ヶ月毎に開催される法人主体のマリンホームを良くする会があり、職員の意見・提案を聞いている。また、普段の支援中での会話とか、連絡帳にも意見を記入する事もある。食事の内容の変更、農園で何か作ったらどうかとの意見があった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回、全職員に対して基礎評価表(自己評価)及び今後の目標を提出することによって、各自の向上心が持てる。それをもとに管理者も個人評価が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量にあった法人内外の研修に参加している。また資格取得や実践研修等の法人としてのサポートも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他の施設が主催している研修にズームで参加している。活発な意見交換はなかなか出来ないが資質向上への取り組みは継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込みの時点で本人の現在の生活に対する要望などをお聞きして会話を重ね、安心感を持ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの時点で家族としての介護に対する困りごとや施設入居に関しての不安などをしっかりと聞き入れ会話をもって関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の意向を確認し、在宅時のケアマネや利用中のサービス関係者等にも意見を求め、情報を共有し、本人・家族にとって良い支援策を考え、提案していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は共に暮らし、生きていくものとして、職員が励ましたり、人生の先輩から励まされたりとお互いに支え合って生活できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最近ではライン登録を活用して本人のちょっとした行動や表情を写真や動画にとってやり取りすることもある。体調不良等状態の変化があればすぐに報告し、必要時には家族の力を借りることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍が続き、馴染みの人や場所との交流が出来ず、ストレスも溜まっていることと思う。交流なく車でドライブしたりすることが精一杯である。	年賀状を書いたり、電話をかけたりする利用者もいる。コロナ禍で面会、外出が難しいので回想法ライブリーのDVDを流し昔の生活の様子で利用者との会話が膨らんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人、暮らしてきた環境の違いで、相性の合う、合わないがある。職員が個々の性格等を把握しながら関わりを持ち、穏やかに暮らせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な理由で退居になっても、その後の生活が安心して過ごしていただけるように各関係機関と連携を図り、支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年度の事業計画に一人一人の趣味や個性を生かした個別ケアの実践としてやりたい事の希望を聞き、対応できることは実践していく事にした。まだ、全員の方の要望に応えてはいないが、すこしでも思いに近づけるように努力しているところである。	一人ひとりの会話時間を作り、意向・思いを聞き出し実践に心掛けている。聞き取った意向・思いは職員に配布し共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	NHK回想法ライブラリーのDVDを借り、レクの時間を利用して、昔の話をしたり、出身地や親、兄弟の話をする事で、入居者の思いがけない生活の様子がわかることがある。そこから、話が膨らんでいくことがある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調管理はもちろんの事、機嫌の善し悪し等しっかり観察力を持ち、対応している。職員の一言で心身の状態も変化することを職員は把握して、常に情報を共有し、統一したケアに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に入居者の日常生活における課題や必要なケアに対して、職員全員にアセスメント、必要なケアに対しての意見を書面で提出してもらい、会議の場で話し合うようにしている。家族とは面会時に確認するが、書面でもお願いしている。	面会・電話等で家族に意向を聞き、ケース記録を参考に3ヶ月毎にモニタリングを行ない、6ヶ月後に課題整理総括表を作成している。また、サービス担当者会議を実施し見直しを行なっているが、状態の変化があれば随時見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録管理は24時間シート及びデータ入力によって管理されている。日々変化する毎日の状況はケース記録へ入力。様々な問題点等があれば連絡帳に記入したり、申し送り時にプチ会議として話し合い、ケアの方向性を決めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況については皆が違うニーズがある。様々なニーズに対して、できることは支援し、柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍において、地域との関りが一切なくなってしまい、張り合いのない生活で入居者も意欲の低下が顕著に表れている。職員は少しでも気分よく生活が出来るように明るい雰囲気作りに努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に当ホームの協力医との連携について説明。本人・家族の意向を確認し、納得の主治医を選択してもらっている。協力医には月2回の往診と緊急時には24時間連絡が可能ですぐに指示を受けることができる。薬は調剤薬局からどんな時でも届けてもらっている。	全員が協力医とし月2回の定期訪問診療がある。体調不良時には職員が付き添って受診し、その都度電話で家族に連絡している。協力医は24時間対応で適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の配置はなく、併設のデイサービスの看護職員に対応してもらっている。状況によっては協力医の往診や看護師の派遣もあり、医療との連携によって今のところ訪問看護の利用はない。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在はコロナ感染予防のため、本人と面会ができず、担当看護師からの情報のみであり、家族と何度も相談の上、本人にとってよい支援方法を模索していく。また、施設入居の希望者の紹介についても病院のソーシャルワーカーと空き情報等の連絡を取り合ったりしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には重度化及び看取り状態になった時の対応に対する説明はしている。実際にそのような状況になった時には同意書も用意している。主治医・家族との間で橋渡しとなり、可能な限り本人の意思を尊重して職員間で統一したケアに取り組み、寄り添う介護で穏やかに終末期を過ごせるように支援している。	看取りの指針で入居時に家族に説明し、その状態になった時は主治医と家族と話し合い同意書を交わしている。職員は看取りの研修に参加し、共にチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの周知には努めているが、実際には全職員の実践には繋がっていないのが現状であるが、救急搬送時の消防隊との連携に情報提供シートの活用で、落ち着いて搬送できるようになってきている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2か月に一度は法人全体の防災委員会に管理者が参加し、対策や災害訓練を実施している。また、併設のデイサービスと合同の避難訓練や事業所独自の夜勤帯想定の訓練を行っている。地域で開催される防災訓練にも参加して協力体制を築いている。しかし、コロナ禍において2年間中止が続いている。	2ヶ月毎に法人で開催される防災委員会に参加したり、デイサービスとの合同で年2回、火災想定で通報、避難訓練を行なっている。駐車場には自治会の防災倉庫も設置されており、利用者の非常持ち出し袋も用意してある。備蓄は米・水・味噌・ビスケット、非常用品は発電機・サーチャイト・大きな鍋・プロパンガスコンロ・おむつ等がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格や暮らしてきた環境の違いを把握して、コミュニケーションの取り方にも違いがある。プライドやプライバシーに配慮した言葉かけに心がけている。	通信だよりの顔写真は、ぼかしを入れ映らないように掲載している。呼称はさん付けで、他人に聞かれて困る事は小さな声で声掛けし、あらゆる場面での配慮・気遣いを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定も自立支援の一つであるため、常に本人に確認するようにしている。日頃から、なんでも言えるような家族的な関りをしているため可能な限り希望どうりの生活を送ってもらえるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のうち、一人一人の過ごし方はそれぞれで、決まったルールはなく、体操やレクの時間にも自由に参加してもらっている。一日中徘徊する方にも職員は根気よく関わっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴前には本人に着替えを選んでもらっている。毎朝の洗面時にはホットタオルで顔を拭き、ブラシで髪を整えるよう声掛けし、できない方には職員が整える。3か月に1回は訪問理容に来てもらいカットをお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍において、職員と一緒に行動することが出来なくなり、食事バラバラ、入居者間はテーブルにパーテーションが必要になり、味気ない食事風景になっている。それでも毎月の誕生日会にはバースデーケーキでお祝いし、感染対策をしっかり行い職員が作ったおやつを食べたりして楽しんでいる。	法人の厨房で調理され、栄養・量・味は充分吟味されており、利用者の状態に合わせ盛り付けて提供している。ごはんは職員が作っており、各テーブルに献立メニュー表を配置し食内容がよくわかる。忘年会は食べたい寿司をリクエストしたり、月1回職員が作ったおやつがあり楽しい食事となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量は毎日チェックし記録している。摂取量の少ない場合には、希望の物を提供することもあるが、意思の確認できない場合には試行錯誤しながら提供している。体調の変化があれば主治医へ報告し指示を仰いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし洗面台まで誘導している。自力でできない場合には介助している。義歯のある方は夜間、洗浄剤に浸し朝まで預かっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は定期的に声掛けし、誘導している。本人の訴え時にもその都度誘導している。立位不安定な場合には二人介助で行うようにしている。尿意・便意があいまいな場合には行動や表情の変化を見逃さないようにして誘導している。夜間はコール対応したり、声掛けしている。定期的なバット交換実施。	利用者一人ひとりの排泄チェック表で、習慣やパターンに応じて定期的に声掛けし、トイレ誘導をおこなっている。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。尿意・便意があいまいな場合は、表情・仕草を察し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表があり、一人一人の排泄パターンを把握して、なるべく毎日スムーズに排便があるように、バナナやヨーグルトなどの食べ物で工夫したりして支援している。体調に合わせた適度な運動の指導もするが、便秘症の方には下剤の服用でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の好きな方、嫌いな方それぞれですが、なるべく統一した周期で入浴できるように日時を決めている。拒否のある方には時間を空けたり、声掛けを工夫したりして無理強いはいないようにしている。	週2回の入浴を基本としている。全員が湯舟に入れる様に、車椅子で出入りが出来るリフトタイプの浴槽でゆったりと入浴をしている。また、各種の入浴剤や柚子・菖蒲等も利用し、温泉気分を味わってもらい入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に過ごし、生活のリズムを整えて夜間の安眠につながるよう支援している一人一人のペースがあり、個々の就寝時間に合わせて介助している。寝具は清潔を保ち、季節に合った寝具を使い、空調管理も適切に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は一人一人の個人ファイルに保管していて全職員が確認できるようになっている。投薬の変更や中止、追加等はその都度連絡帳及び申し送り時に伝えている。服薬介助は誤薬予防のため必ず二人で目視している。薬剤師の方も協力的で投薬があればすぐに届けてくれる。相談にものってくれている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人、得意な事、楽しみ事が違う。畑作業の手伝いや洗濯ものたたみ、チラシのゴミ箱作り等、気分転換を兼ねて散歩に出たり、思い思いに好きなことをして過ごしている。やりたい事があればできるだけ支援していくようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は今は困難であるが、桜見物や菖蒲見物など、ドライブがてら見物できた。家族との外出ができず、辛い日々である。早く自由に行動できるようになることを願う。	コロナ禍で以前のように外出は出来ないが、季節の花を見にドライブを行っている。散歩やデイサービスの花壇の花を見たりして、外気浴で利用者の気分転換、ストレス発散となるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人がお金を所持することはできない。事業所で家族から預かっている。希望時には家族に確認後お小遣いから出金して購入している。本人が自分の所持金を気にされる場合もあるが、家族から預かっていると伝え、納得する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚からの電話があれば必要に応じて取り次ぐ。入居者からの希望にも応じることがある。現在はラインを活用してビデオ通話もできる。写真や動画も送れるため、安心感に繋がると思われる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中はほとんど皆がホールに出て、思い思いに時間を過ごしている。夏場の空調管理には神経を使い、特にコロナ禍においては感染予防のため換気と暑さ対策が必要であり、また、冷やしすぎや風量等にも配慮して気持ちよく過ごせるように工夫している。	玄関に職員の顔写真、理念が掲示されており、壁には利用者がちぎり絵、折り紙で作った季節を感じる手作り作品が飾ってある。コロナ感染予防の為、加湿空気洗浄器が設置されており、利用者は各自の椅子・ソファに座りDVDを鑑賞しゆっくりくつろいでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内で自分の定位置があったり、自室で日記を書いて過ごす方がいたり自由で過ごせる環境づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には本人の大切にしていた物を持ち込んだり、自宅で使用していた家具を持ち込み、本人が安心して過ごせるようになっていく。	ベット・クローゼット以外は、仏壇・テレビ・家族の写真・使い慣れた家具等、家族の協力を得て持ち込まれ安心して暮らせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーを押して歩く方や車いすを自走する方、独歩の方など皆が安全、安心して過ごせるようにホール内の環境整備には十分配慮している。		